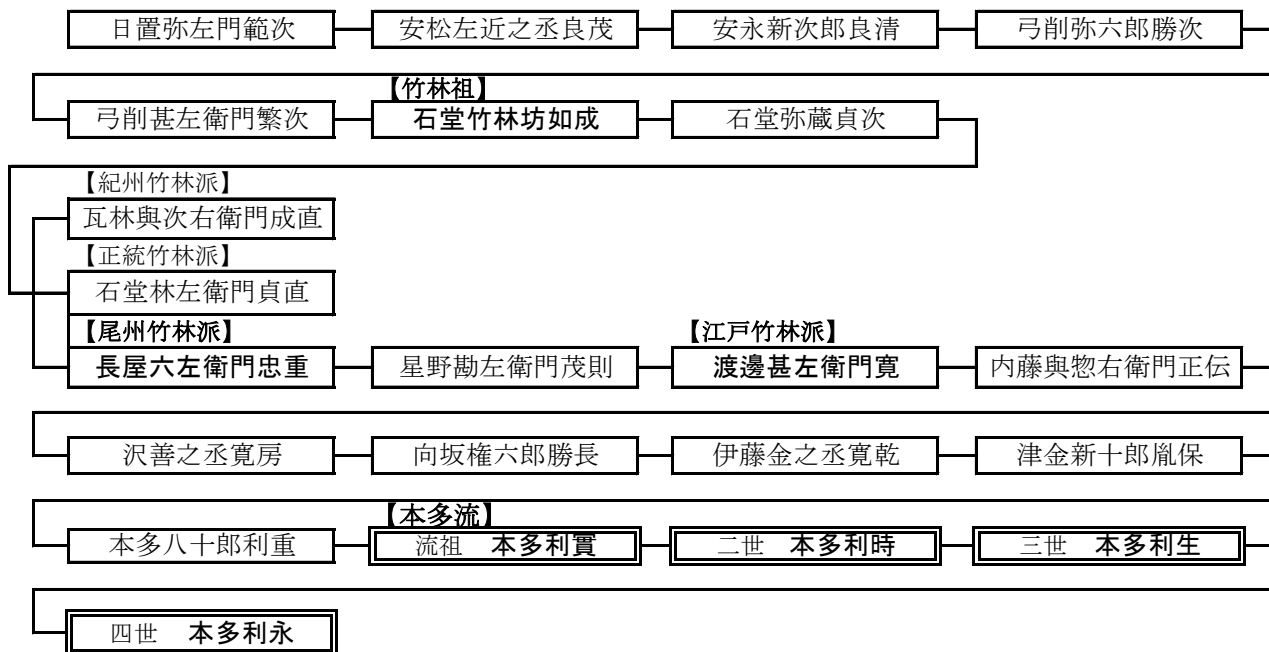


## 【本多流系図—竹林派傳系】



## 【本多流宗家四代】



本多利實 (としぎね)  
(1836—1917)



本多利時 (としとき)  
(1901—1945)



本多利生 (としなり)  
(1934—1994)



本多利永 (としなが)  
(1968～ )

## 【本多流・略年表】

西暦	年号	項	理事長
	江戸後期	本多利重 (流祖利實の父—徳川幕府の旗本、本多家初代/利友から12代) 日置流竹林派家元の津金新十郎胤保から宗家を継承。	
1829年	文政12年	徳川11代将軍家斉の前で大的上覧。	
1836年	天保 7年	本多利實、利重の長男として誕生。6歳より弓を習う。	
1860年	安政 7年	25歳で日置流竹林派皆伝印可。	
1869年	明治02年	医学校 (現東京大学医学部) 勤務。後、文部省へ移る。	
1889年	明治22年	「弓道保存教授及び演説主意 (一名「弓矢手引」)」著。 神田小川町に弓術練習所を開設。巢鴨村村長に任命。	
1892年	明治25年	第一高等学校弓道教授に就任。	
1900年	明治33年	日本体育会弓術部教授に就任。「弓道講義」(長谷部言人筆)。	
1902年	明治35年	「弓道大意」刊。東京美術学校, 東京帝国大学弓術部師範就任。	
1905年	明治38年	学習院弓術師範就任。	
1907年	明治40年	「射法正規」著。	
1908年	明治41年	「日置流竹林派弓術書 (東京帝国大学弓術部編)」刊。	
1908年	明治41年	「尾州竹林派弓術書 (東京帝国大学弓術部編)」刊。	
1917年	大正06年	利實、交通事故で逝去。生弓会発足。	
1922年	大正11年	生弓会編『竹林射法大意 (屋代欽三著)』刊。	

1922年	大正11年	本多利時、本多流二世を継承。利實講述『弓道講義』刊。	
1923年	大正12年	利實後述「弓道講義（根屋鹿兒編）」刊。	
1925年	大正14年	社団法人生弓会発足。	
1930年	昭和04年	生弓会本部道場を巣鴨庚申塚に建設。翌年道場開き。	
1931年	昭和05年	生弓会「会報」創刊。	
1939年	昭和14年	雄山閣『弓道講座』13, 14巻に『中学集講義』上下を利時著。	
1940年	昭和15年	雄山閣『弓道講座』18巻に（「学校弓道の現況」）利時著。	
1943年	昭和18年	社団法人生弓会を財団法人に改組。	関谷龍吉
1945年	昭和20年	生弓会本部道場、戦災で焼失。二世利時、逝去。	
1949年	昭和24年	日本弓道連盟発足（会長に樋口 實）	
1952年	昭和27年	日本学生弓道連盟発足（初代会長に高木 棊～生弓会師範）	
1963年	昭和38年	本多利生、本多流三世を継承。	
	昭和44年	藤岡由夫、生弓会の理事長に就任	藤岡由夫
1976年	昭和51年	「本多流始祖射技解説」（寺島廣文著。生弓会発行）。	
1977年	昭和52年	前田充明、理事長に就任。 「弓道の科学的分析」を提唱し推進。	前田充明
1989年	平成01年	柳川覚治、理事長に就任	柳川覚治
1991年	平成03年	「中央研修会」を本格的に開催。	
1993年	平成05年	生弓会70周年記念の中央研修会で利生宗家「明治・大正・昭和の本多流の射手」を講演。	
1994年	平成06年	三世利生、逝去。本多利永、本多流四世を継承。	
1996年	平成08年	本多流勉強会」を立ち上げる。	
2002年	平成14年	本多利永、本多流四世を襲名披露。	
2003年	平成15年	生弓会編「本多流弓術書」刊（監修：利永宗家）。	
2005年	平成17年	遠山耕平、理事長に就任。	遠山耕平
2006年	平成18年	生弓会編「本多流射礼解説書」刊（監修：利永宗家）。	
2013年	平成25年	公益法人改革により一般財団法人本多流生弓会に改組、同時に四世利永、初の宗家・理事長に就任。	本多利永
2014年	平成26年	「本多流弓術書」及「本多流射礼解説書」を再刊。	